



プラントエンジニアリング企業が 挑戦する陸上養殖事業

2025年12月9日

かもめミライ水産(株) 代表取締役
大澤 公伸

- 発表で使用する画像データの著作権は日揮グループに帰属します。当社の事前の承諾なく、データの保存、画面の撮影、録画等を行うことができません。
- 本資料の複製・転載・改変・再配布を禁止します。

会社概要：かもめミライ水産

- 設立 : 2021年8月30日
- 本社所在地 : 福島県浪江町
- 主要株主 : 日揮株式会社 / いわき魚類株式会社
- 事業内容 : 完全閉鎖式陸上養殖設備による水産物の生産・加工・販売



■ 震災復興のシンボルとして特産品を産み出したい...！

- 東日本でサバの生食文化を創出する
- 福島・浪江町の強力バックアップ

■ 整ったインフラも追い風に

- 常磐自動車道・阿武隈山系の伏流水・再エネ由来の電力

■ 日揮の新規事業の柱として

- 陸上養殖に関わる技術、ノウハウの獲得

日揮が陸上養殖参入

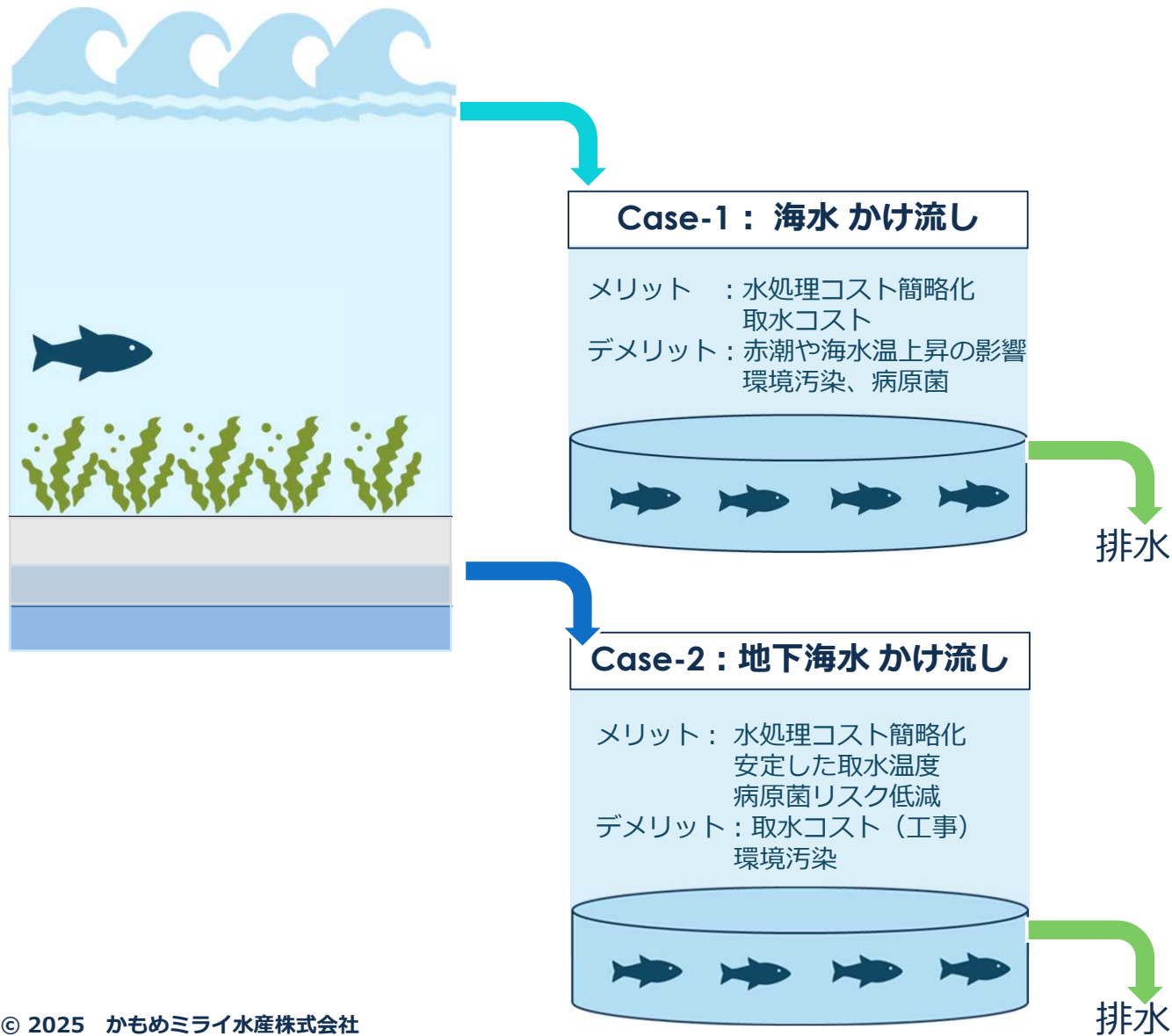
福島のかもめミライ水産 24年からサバ本格生産

日揮ホールディングス（日揮HD、横浜市）グループは20日、国内エンジニアリング事業会社の日揮（同市、山田昇司社長）が昨年8月に設立した「かもめミライ水産」（福島県浪江町）について、陸上養殖による魚の生産・販路構築を手掛けると発表した。生食向けの需要が高まるサバの本格生産を2024年から始める。サバ以外の魚種も企業や自治体のニーズに合わせて順次生産するという。

いわき魚類も出資
かもめミライ水産の陸上養殖は、日揮グループが持つエンジニアリング技術を生かす。日揮は21年から岡山県内の閉鎖循環式陸上養殖（RAS）施設でノウハウを蓄積し、システム開発を進めてきた。かもめミライ水産の事業では、センサーや画像から生産環境を可視化し、収集したデータを入工知能（AI）などで解析しながら生産支援する「統合環境制御システム」を開発。生産の安定化や生産効率の向上によりコストを低減する。

水産卸のいわき魚類（福島県いわき市、鈴木健寿社長）も、かもめミライ水産に5%出資。日揮HDは「地元の水産業を活性化するため、新たな可能性に挑戦するいわき魚類がパートナーとなり、共同で取り組みを推進する」と説明する。

はじめに ; かけ流し方式と完全閉鎖循環式の違い



浪江町の水道水を原水として、
人工海水をつかって飼育しています

Case-3 : 完全閉鎖循環式 (C-RAS)

メリット : アニサキスのリスク低減
環境制御、安定飼育
デメリット : 設備コスト
運転コスト (特に電気代)



2022				2023				2024				2025			
1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月

建設工事（約10か月）

立上げ

1年目飼育（約10か月）

2年目飼育

5月 日揮HD
陸上養殖事業取り組みに
関する プレスリリース



10月
福島県浪江町
立地協定式



4月 事業説明会
地元で**5名雇用**



1月 地鎮祭



3月 着工（北産業団地）



1月 完工



4月 「福の鯖」 **初出荷**



■ 2025年4月に初出荷を達成 !!

- 「福の鯖」ブランドでアニサキスフリーの生食サバを提供



道の駅なみえでの出荷式

(1) 歩留まりの向上

- ・ 水処理機能の強化
- ・ 丈夫な稚魚の確保
- ・ 感染症など大量斃死時の対応

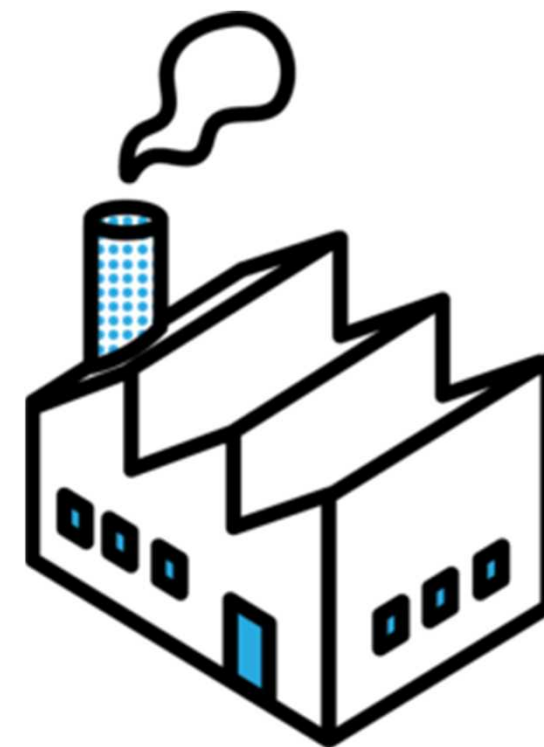
(2) 生産コストの低減

- ・ 電気代、飼料、塩etc

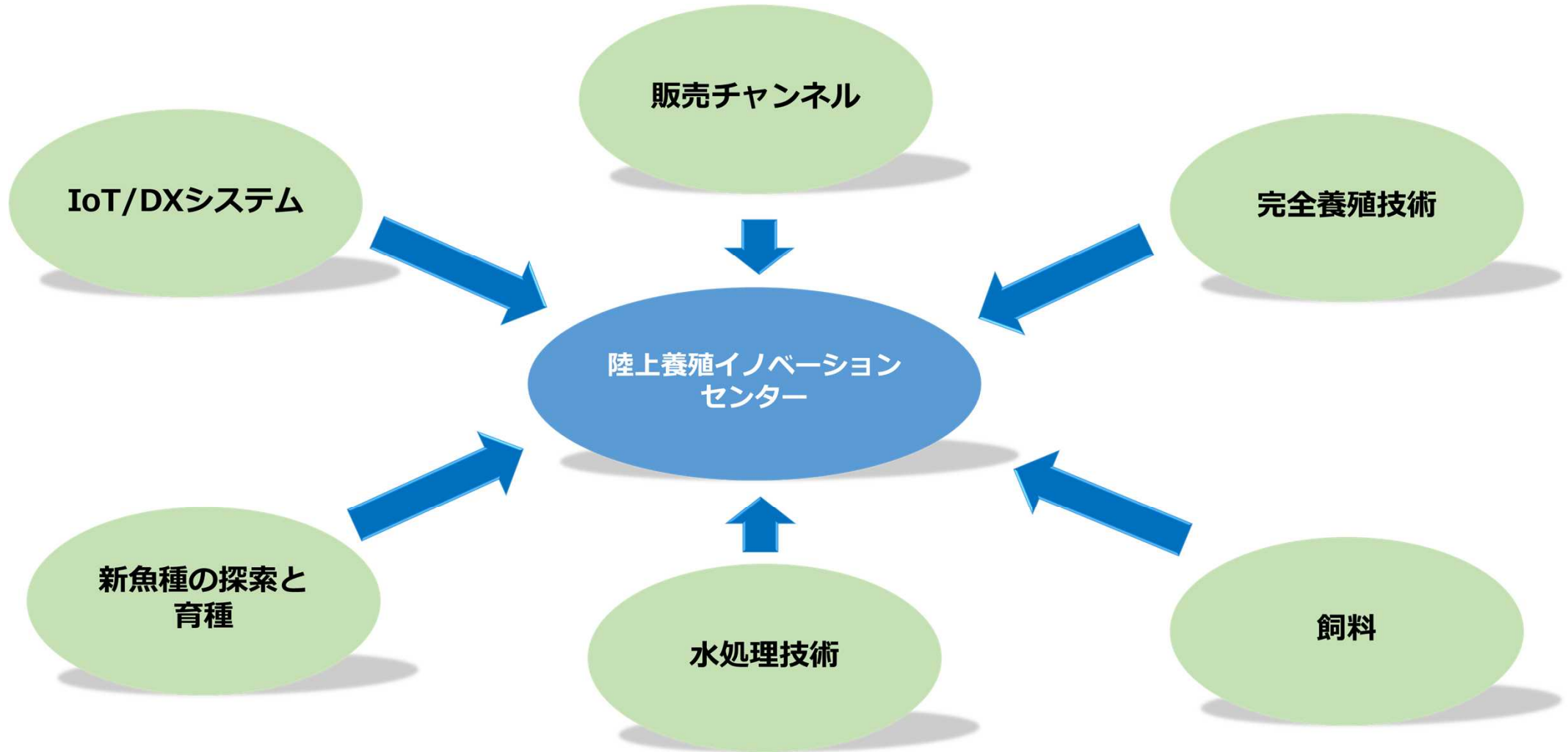
(3) サバの品質向上

- ・ 大きさ、身質、臭み

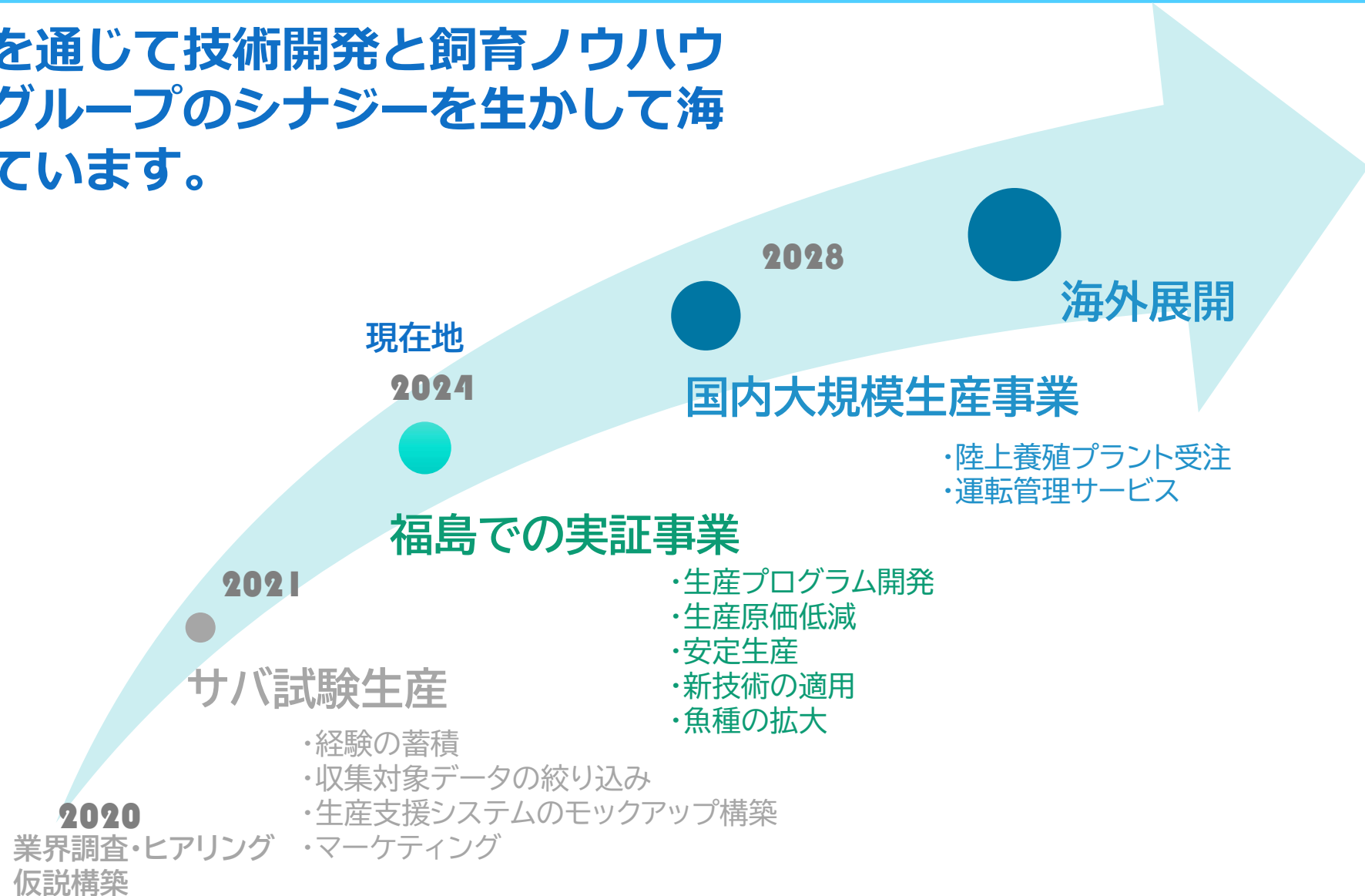
(4) 養殖施設内の腐食対策



私たちはマサバの実証を切り口に、RASシステムのプラットフォームを目指します



サバの陸上養殖を通じて技術開発と飼育ノウハウを蓄積し、日揮グループのシナジーを生かして海外展開を目指しています。



私たちとともに発展をめざす アライアンスパートナーを募集しています

- 陸上養殖の知見・経験を持つ水産研究機関や大学
- 陸上養殖分野に進出ないし検討中の企業や自治体
- 生産の委託や技術開発を行いたい企業